



あらすじ

「そうだ、かき氷を食べよう」

一人が言ったこの一言が、我々をかき氷へと駆り立てた。

普通のかき氷で良いのだろうか。

いや、違う。

普通のかき氷では物足りない。

では何を求める。

そうだ、天然氷のかき氷を食べねばならぬ。

そうと分かれば話は早い。早速レンタカーの手配をし人を集め、埼玉県秩父郡長瀬町の天然氷蔵元 阿左美冷蔵^{*1}を目指すことにした。男5人の小旅行である。

白き山を目指して

9月某日、我々は大学近くのレンタカー屋を出発し、練馬 IC から関越自動車道を利用して、花園 IC を目指す。当日は平日の昼ということもありそれほど混んではおらず、快調に車を飛ばす。

深谷市を通過し寄居町に到着すると、警察署の前で3人のカエルが我々を出迎えてくれた。今後の運転で事故が起らないことを祈る。その後は有料道路を通過し、目的地の長瀬町で降りた。駅前に駐車場があったのでここで停車。少し歩くと目的の阿左美冷蔵に到着した。

阿左美冷蔵に到着してまず目に入ったのは行列である。9月の平日の正午にも関わらず、既に何十人もの人が並んでいた。列に居たのは年配の方や家族連れが殆どであったが、よく見ると我々と同じ大学生くらいの年齢の方もちらほら確認できた。どうやら考えることは一緒のようである。渋々列に並ぶと、すぐさま10人程の団体客が我々の後ろに一気に並んだ。少しでも遅れていたなら先を越されていただろう、非常に運が良かった。

さて、目的のかき氷であるが我々を非常に驚かせるものであった。まず高さ30cm程度はありそうな白き山に我々は圧倒された。我々はそれに果敢にも挑みだす。氷は非常にきめ細やかで、我々の手は留まるところを知らずサクサクと進む。しかし食べ進めていくと、そこはかき氷特有の頭痛が起こらない。このかき氷、食べても全然頭が痛くならないのである。筆者は少し



これが天然氷のかき氷だ！！

^{*1} 今回訪れたのは金崎本店。他に山の中腹にある宝登山道店もあるが、こちらは現在営業停止中。

痛くなったが、それでもすぐに引く程度のものであった。天然氷故なのか分からぬが、どこか神秘性を感じさせるものであった。

……少し内容を盛った気がしたが、とにかく非常に美味しいかき氷であった。それは間違いない、うん。

河原の冒険

かき氷を食べて満足した一行は、予定に組んでいた長瀬のライン下りを堪能することに。しかし、先日あった台風の影響で川が増水し、残念ながらライン下りの予定は中止。そこでどの程度川が増水しているか気になった我々は、実際に近くの川の様子を見に行くことに。どうみても死亡フラグ*2である。良い子は決して真似してはいけない。

河原に着いた我々は濁った川を見て、なるほど、これは無理だなと納得。勿論川には入らなかったが、折角なので河原で遊ぶ事に。久々に童心に戻り、ひたすら水切りや水の堰き止めをして遊ぶ男子大学生5人なのであった。



お手製ロックフィルダム

鍾乳洞を登る

さて、河原遊びにも飽きた大学生一行は次の目的地、秩父市影森にある橋立鍾乳洞を目指す。長瀬町から秩父市まではバイパスで一本の為、殆ど迷うこと無く目的地に到着。

さてこの鍾乳洞、タイトル通りなのだが、実は鍾乳洞の中では珍しく縦に長い竖穴である。本当に登っていくのである。入園料の200円を払い鍾乳洞へ。最初は下ったと思ったら、その後は時折梯子を使ってひたすら上へ。鍾乳洞内は狭く、入り口で貸して貰えるヘルメット無しでは危いところであった。内部は湿っぽく、石筍や石柱もよく見られた。菩薩に例えられた鍾乳石も見かけたが……パチとか当たらないのだろうか。中々面白い鍾乳洞であった。



HASHIDATE 鍾乳洞の前に鎮座する秩父札所28番橋立寺

浦山ダムへ

時間が余った一行は鍾乳洞近くにあるダム、浦山ダムへと向かう。浦山ダムは堤高156.0m*3、重力式コンクリートダムとしては奥只見ダムに次ぐ全国2番めの高さを誇るダムである。またダム湖としてさくら湖を有する。こちらも大きい。但し、湖は赤くはない*4。この事からも非常に大きなことが伺えるが、その後我々はその高さを身を以て体験することになった。

このダム、上から下へのエレベータがあるのだが、それだけではなく階段も存在する。我々日頃特に運動しない男子大学生5人は無謀にもこの階段を登ってみることにした。繰り返すが、浦山ダムは堤高156.0mである。大体東京タワーの階段を登るようなものである。

*2 実際、長瀬町の荒川沿岸は毎年死者が出ている非常に危険なところである。今回は日数も経っているという事もあり、水量は大したものではなかったが、台風の日には本当に近づいてはいけない。飛び込みとか以外の外である。

*3 某ロックバンドのhyd O約100人分である。

*4 SCE社から発売された某ホラーゲームの舞台モデルが秩父だったりする。まあ実際モデルになったのはもっと奥地の方なのだが。



青年は階段を辿る

おわり

今回の小旅行であるが、様々な発見があり非常に楽しい旅行であった。特に阿左美冷蔵のかき氷は非常に美味しかったので、まだ天然氷のかき氷を食べたことのない方は食べてみて欲しい。少し値ははるが、それだけの価値はあるものだと思うので是非。

また他の場所も色々な発見が出来て楽しかった。今回はライン下りは残念ながら中止となってしまったが、他にも長瀬町の岩畳や秩父市のまつり会館等、見るところはまだあるのでまた行くのも一興かもしれない。

今回は時間が無かったが

次こそは……

珍石館*6 ……

珍石館へ行きたい……

と誓ったメンバーなのであった。ちゃんちゃん。

まあ東京タワーと同じくらいなら、と誰一人エレベータを使わずに階段を登りはじめた。単調な階段であり、最初は特に問題なくサクサクと登っていく。しかし登っても終わる気配のない階段を目の前に徐々に絶望が見え始める。最初走って登っていた輩も力果てていき、ダムの高さの半分に達する頃には既に息が上がっていた。なんとか全員登り切ったが、登り切ったときに全員疲れ果てていた。体力不足を感じさせられる結果となった。正直しんどい。

その後は事務所に行ってダムカードを貰った。プラスチック製の何の変哲のないカードであるが、ちゃんとダム毎に貰えるカードは違うのでコレクション要素はある。ダムに行く人は是非とも集めてみて欲しい。ちょおかつこいいぞおたぶん。因みに先日台風がきたという事で、もしかしたらダムから放流が見れるかと期待したのだが今回は見れなかった。残念。

その後は秩父神社を軽く参拝した後に帰宅。行きと違って渋滞に巻き込まれ、レンタカーの返却時刻に間に合うかの瀬戸際であったが、メンバー一人のSAN値*5を生贄に何とか間に合わせる。帰るまでが遠足、という言葉が久々に感じた一瞬であった。



寄居の守護神

*5 TRPG「クトゥルフの呼び声」で使用されるパラメータの1つで、「正気度」を表す。つまりSAN値が少ないと正気ではないという事。いあいあ。

*6 秩父市影森にある、人面石を飾る施設。こちら参照：<http://www006.upp.so-net.ne.jp/chinseki/>